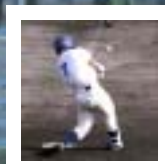


死闘3時間29分粘り勝つ!

4季ぶり 神村 又覇

号外



お互いの持ち味を出させまいとする意地がぶつかり合い、緊迫したムレムレな一戦だった。神村学園が延長14回、3時間29分に及んだ樟南との死闘を制した。初回から相手より多くチャンスを作りながらも、巧守に阻まれ続けた中で、打の突破口を開いたのは主砲 鶴田都貴だった。五回の好機に先制の左前適時打を放ち、1点ビハインドで迎えた

決勝 (県立鴨池)

樟南	000	002	000	000	00	= 2
神村学園	000	010	010	000	01	= 3

(延長14回)

第122回九州地区高校野球大会鹿児島県予選最終日は4月10日、鹿児島市の県立鴨池球場で決勝があり、神村学園が延長14回サヨコラ勝ちで樟南を下し、4季ぶり3回目の栄冠に輝いた。シード校同士の決勝は、神村永石、樟南辻野、両干渉を中心に緊迫した守り合い。神村は1-2-1点差で迎えた八回、四番 鶴田都貴のソロアチで同点に追いつき延長戦へ延長十四回、諏訪原豊の左適時打で3時間29分続いた死闘を制した。政純一郎

「やればできる」を証明

八回には先頭打者で同点弾を左翼席に放り込んだ。2本の適時打は「悔しさ」が奮い立たせてくれたと鶴田。四回の2打席目、外角一辺倒の配球を逆手に取り、外角球を踏み込んで打とうと張っていたら、内角に沈むボールに空振り三振。リベンジに燃えた第3打席で、カウント2-3から唯一真ん中外奇りに甘く入ってきたスライターを左前に弾き返した。調子は良くない中で大振りにならずにつまやく外目の球に対応できた。この打席で打てたことが次のホームランにつながった。

守備では、終盤に樟南得意のバント戦法を封じた粘りが見事だった。八回表一死一三塁のピンチは、相手のスクイズを読み切って3アウト失敗で打ち取った。延長十二、十四回は、いずれも無死から出した走者を十永水石和輝が落ち着いたフリールディングで封殺し、進塁を許さなかった。準決勝の鹿児島商戦はバントで揺さぶられたことから樟南がバントを使ってくることは十分に予想できた。永石はフリールディングの下手な投手ではないが、準決勝は初戦以来の久々の登板で戸惑った。ゆくりしたボールでわざとバントをさせて、先の塁で刺すことを狙っていましたと永石。ミカ出ながらも我慢して守り、攻撃で粘り全員で頑張ったことが十四回、諏訪原豊のサヨコラ打につながった。大会前にチームの大黒柱だった長澤宏行、前監督を失い、何かと周囲が騒がしかった中で、結果を残したいという思いでこの春を戦ってきた。干渉永石はこの大会は絶対優勝すると長澤監督と約束したという。4回戦の大島戦は4点差をひっくり返されて敗北寸前まで追い詰められたが辛うじて勝利を収めた。大島戦が生きている。必死で野球をやれることを思い出させてくれた。山本常夫監督。準決勝、決勝はいずれももきん差の勝負をものにした。両者実力伯仲だった決勝は、一年生大会で敗れた樟南に借りて返したいという執念がわずかに勝った。今大会の最大の収穫は「やればできる」ということを選手が証明してくれた。(山本監督)

